

草津市立矢倉小学校通信 令和3年10月15日 NO.11



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

学ぶこと・・・単なる情報のやりとりでなく

緊急事態宣言下で動き方が制限されても、子どもたちは、精一杯、学んだ。人が一か所に集まることは感染のリスクを高めることになる。そのため、学校滞在時間は午前中だけ、午後からは自宅や預かりなどとできるだけ離れるようにして、オンラインで学習した。感染対策上ほんとうに効果があったのかどうかは、正直なところよくわからない。が、そこで取り組んだオンライン学習は、私たちがこれから受け入れていこうとする社会生活の技能、リスク回避やマナーといった作法を学ぶ場になったはずだ。もちろん「よくわかる学習」かどうかという問題は、これからさまざまな検証がなされていくだろうし、私たち大人はこうした流れにつき合いながら、子どもたちにとって足りないと思われるところを補い続けていかねばならない。

宣言が解除され、学習支援の団体、地域の方々に来校いただけるようになった。

5年生は、3学期にフローティングスクールで琵琶湖学習をする。そこで、この学習につながるようにと、県の地球温暖化防止活動推進員の皆さんにお越しいただき、環境学習に取り組んだ。身近な環境である琵琶湖について、少しでも理解が深まるようにと工夫された提示教具はすべて手作りだ。講師の皆さんからの語りかけに子どもたちは引き込まれ、自分たちのどんな発言にも耳を傾けてくださる姿勢に後押しされるようにして、たくさん発表もできた。すごいなあと認めもらうことで、推進員さんたちの地球温暖化防止にかける真剣さ、熱意といったものが、教室全体で共有され、一体感が生まれていく。一つの教室を舞台に、同じ場の空気を吸い、眼と眼を合わせ、心を響き合わせながら学んでいくことで得られるこうした共感性、共振性は、オンラインでは決して手に入れられない貴重なものだ。

オンラインなどで提示され伝達される、見てわかる情報の量や質は、会話や電話といった言葉のやりとり同様、大きなものだ。そこには、現地に行けなくても、手に取るようにして見ることができるよさがある。一方で、出前授業や現地見学のように、一緒に過ごすことは、互いの気心なり、思いや願いを察し、各人の内面世界を広げていくよさがあり、これもまた大きい。

学校では、運動会に代わって体育参観を予定している。さらには、地域の方々と花の苗植えをしたり、戦争体験の話をお聞きしたりする場も予定している。6年生は広島への修学旅行がある。他学年では、サツマイモの収穫、森林学習、ダンス教室やボッチャ体験教室など、交流学习がある。たくさんの方々に支えて頂きながら、ぜひともやりとりし分かち合いたいと願っていることは、単に情報だけでない。そこに付随する心意気や雰囲気、願いを共にすることといった精神性、身体性も、欠かしたくないものだ。どうぞ…、と願わずにいられない。 校長 大林道範